適応行動論試験問題 04 解答＆解説

※作成者：手塚

※解答の誤りから生じた損害については責任を取れません

※正答番号の後に、教科書の該当ページを示した。

問１　④　p.102~106

　　　※ホモ・エルガスタ：現行教科書ではホモ・アーガスターと表記、ホモ・エレクトスの別名と解説されている。どういうことだろう？正答自体は消去法で選べる。

問２　②　p.116

問３　①　p.110~115

　　　※②はネアンデルタール人についての記述。教科書ではネアンデルタール人を「古代型サピエンス」とし、ホモ・サピエンスの亜種とする立場を採用しているので、②は正しい描写ということになる。③、④は現代人についての記述。

問４　④　p.121~123

問５　③　p.123

問６　④　PDF「血縁淘汰」p.24~

　　　※「真社会性」は教科書に登場しない概念（p.123~125「動物における血縁淘汰」の項に相当）。パワポで確認しよう。

問７　③？　p.128~136

　　　※①、④は明らかに間違い。③は「血縁者を血縁度に応じて認識する」が間違いではないかな？「血縁を社会的関係に応じて認識する」が適切な表現だろう。

問８　③　p.129~133,63~65

問９　①　p.140

問１０　①　p.168~169

問１１　④　p.164,172

　　　　※「すべての」「完璧な」の類の形容詞はダウトですよ当然です。「対戦結果」はゲーム理論の用語だし。

問１２　④

　　　　※消去法で④に至る。しかし「実際の行動には当てはまらないらしい」と言われても困る。教科書と矛盾している。

問１３　②　PDF「互恵的利他行動」p.34~

　　　　※最後通告ゲームと独裁者ゲームは講義では扱わなかったはず。

問１４　②　PDF「互恵的利他行動」p.12~14

※これも範囲外。①：正しい。TFT（しっぺ返し戦略）同士が対戦すると常に両者が協力するので高得点が得られる。②：誤り。TFTは「すべて協力」戦略を排除できない（負けはしないが勝てもしない）。③：正しい。TFTは初回は協力するので、「常に非協力」戦略を見分けられる。④；正しい。TFTは相手によって手を変えるので大負けしない。

問１５　②

　　　　※応用問題。②は種の保存論的誤りを犯している(p.73~)。ほかの選択肢は妥当。特に③は「淘汰圧の強さの違い」の問題である(p.203~204)。

問１６　③　p.51~55

問１７　①　p.28~29

　　　　※②：中立進化が生み出すのは遺伝的浮動

　　　　　③：行動の最適化は必然ではない（例：コオロギの戦略p.58）

　　　　　④：p59~62参照

問１８　④　p.38~40

　　　　※ここでの「退化」とは、「ある形質が進化によって消失すること」。

問１９　②？　P.110~112

　　　　※①、③は社会的知能、④は博物学的知能に属する。しかし②は社会的/技術的/博物学的知能のいずれのみに分類されるものではなく、一般的知能と言える。

問２０　③　PDF「霊長類」p.20~

問２１　③

問２２　②　p.97

　　　　※チンパンジーは父系の複雄複雌社会をつくる。

問２３　①

問２４　①　範囲外ですね。

問２５　④　p.120~121